

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 14 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4078800143		
法人名	社会福祉法人 やまと医正会		
事業所名	グループホーム 第二敬和苑		
所在地	福岡県柳川市大和町塩塚1388-1 〒 839-0243 (電話) 0944-76-5556		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年1月6日	評価確定日	平成22年2月2日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 12 月 20 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人
		非常勤	人
		常勤換算	14 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての～		1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有( 100,000 円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,100 円程度	

## (4) 利用者の概要(12月20日現在)

登録人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	6 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	千蔵医院 / 二宮歯科クリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リビングは天上が高く開放感があり、天窗からは柔らかな光が差し込み、居心地のよい空間となっている。ホーム周囲にはのどかな田園風景が広がり、居ながらにして季節の移ろいを感じることができる。また、庭には畑があり、そこで育てた野菜を食事に利用するなど生活感が感じられる。テーブル拭き、食事の下ごしらえ、調理手伝い、後片付け、畑仕事など、介護計画書に利用者の役割として取り入れ、その人らしいあり方や暮らし方の継続を支援しようと取り組んでいる。隣接する事業所に湧き出ている温泉を利用して足湯の場を設け、一般へ開放することを通じて地域住民との交流に取り組んでいる。今後とも、利用者の尊厳を常に意識しながら、地域のなかで利用者が和やかに暮らせるよう、利用者の視点に立ったケアへの取組みが期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 現管理者は、9ヶ月前に異動してきたばかりであるが、情報の共有を図るために、書類等の統一に着手するなどの取組みがある。また、利用者の穏やかな生活支援として、職員間の信頼関係の構築に努めるなど、質の向上に向けた取組みがある。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の受審に伴い、各ユニットの職員が自己評価を記入してまとめるなど、職員がかかわっての自己評価への取組みがある。この過程において、職員が自らのケア内容を振り返るきっかけになるなど、質の向上に向けた取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 関係者を招いて2ヶ月毎の開催がある。ホームや利用者の状況についての報告のほか、老人会や公民館等の主催で行われる行事の情報を得るなど、意見交換が行われている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族面会時の声かけや面会時に利用者個々のアルバムや介護記録を提示しての説明、その都度の電話連絡などを通じて、説明・報告が行われている。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 隣接する事業所に湧き出ている温泉を利用し、敷地内に足湯が出来る場所を設け、一般に開放することにより、地域住民との交流がある。また、老人会や地域公民館主催の行事への参加等を通じた交流も行われている。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	基本理念及び法人理念として、心のケアを挙げ ている。また、グループホーム独自の理念として、 職員間で協議し、地域交流を意識した理念を作成 している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内及び事務所に掲示しており、職員、利 用者、家族や来館者等の目に触れる工夫がある。 職員は「利用者を敬う心」を常に意識して、日々 のケアへ取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	隣接する事業所に湧き出ている温泉を利用し、 敷地内に足湯が出来る場所を設け、一般に開放す ることにより、地域住民との交流がある。また、老 人会や地域公民館主催の行事への参加等を通じ た交流も行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	現管理者は、9ヶ月前に異動してきたばかりであ るが、情報の共有を図るために、書類等の統一に 着手するなどの取組みがある。また、利用者の穏 やかな生活支援として、職員間の信頼関係の構築 に努めるなど、質の向上に向けた取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎の開催がある。ホームや利用者の状況についての報告のほか、老人会や公民館等の主催で行われる行事の情報を得るなど、意見交換が行われている。		年間計画による運営推進会議の開催、及び運営推進会議を利用した各種出前講座や行政担当職員による講話の開催など、より充実した会議となるような取り組みを期待します。また、全家族への運営推進会議議事録の送付を通じて、情報提供や様々な制度等についての理解の浸透、及び家族との連携が図られるような取り組みを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への行政担当職員の参加が見られる。介護保険に関する質問等様々な相談を行い、アドバイスを受けるなど、質の向上に向けた取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度等に関する資料に基づいて、ホーム勉強会を行うなど、職員の理解を深めるための取り組みがある。家族へは、必要時に説明が行われている。		必要時の説明に留まらず、運営推進会議時等を利用して、行政担当職員から制度についての講義をしていただくなど、広く情報を発信し、繰り返しの制度の説明と周知への取り組みを期待します。
4 理念を实践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけや面会時に利用者個々のアルバムや介護記録を提示しての説明、その都度の電話連絡などを通じて説明・報告が行われている。運営推進会議の議事録や“たより”等のご家族への送付は、今後の課題である。		運営推進会議の議事録、及び担当職員等による状況報告を記載した“お知らせ”の送付、メールの活用などを通じて、様々な情報提供を図り、利用者の暮らしぶりを伝えることにより、家族との連携が図られるような取り組みを期待します。
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先への意見箱の設置、及び家族面会時の声かけや説明、その都度の電話連絡などを通じて、家族の意見や要望等の表出に努めている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しく職員が入職した場合は、まずは利用者寄り添い、利用者とのコミュニケーションを密にとってもらい、先輩職員が指導に当たるなど、馴染みの関係作りへの取り組みがある。		法人としての考え等もあるかとは思いますが、短期間での急な異動が多いように思われます。職員の定着や職員間のチームワークは、利用者・家族に対する馴染みの関係性への継続と心に寄り添うケアの大切さ、また、家族、地域との連携を深め、あらゆる状況に対応する際の大きな力となり得ること等を考慮され、就業環境等の整備も含めた検証と改善への取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は法人での募集・採用であり、年齢や性別、経験等の有無は問わない。定年制を設けているが、希望に応じて継続雇用が可能である。資格取得に向けて勤務ローテーションを考慮したり、得意なことや不得意なことを、職員間でフォローし合うなどの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部で行われる研修会への参加を通じて、人権について学ぶ機会がある。研修参加後は、カンファレンス時に報告会を行うなど、情報の共有とホーム全体のレベルアップに向けた取り組みがある。高齢者の尊厳として、理念に沿った指導が行われている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部での勉強会に参加したり、ホーム内での勉強会を開催している。行政主催の研修会への参加や職員が自主的に勉強会に参加するなど、職員のスキルアップへの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との連携や相互訪問、交流などへの取り組みは、今後の課題である。		職員レベルでの他の事業所との交流や情報交換を通じて、職員一人ひとりのモチベーションが上がり、質の向上へと繋がります。グループホーム協議会への加入や行政を巻き込んだ、他事業所等との連携が図られるような取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居宅介護支援事業所や病院、施設等からの情報を収集し、職員間で情報を共有し、統一したケアへ取り組んでいる。入居後は、頻繁な声かけを心がけ、他の利用者との関係性の中で、出来ることの把握と役割を持った生活支援への取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のかかわりを通じて精神的な面で感じ、学ぼうとする姿勢が伺える。職員は、利用者の笑顔と何気ない一言に癒され、勇気付けられるなど、精神的に支えあう関係が構築されている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて利用者の思いや意向を把握し、把握した内容は、申し送りノートやセンター方式の様式を活用して情報の共有と検討が行われている。		現在、センター方式の様式のうち1種類のみを活用しておられます。本人の言動や行動などから本人の気持ちを探り、その人らしい暮らしを支えるツールとして、他の様式の活用も検討され、更なる把握内容の充実に取り組まれることを期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりや面会時の声かけ等を通じて、本人・家族の思いや希望等を把握し、申し送りやモニタリング時に協議を行い、介護計画書を作成している。介護計画書は、利用者の役割に着目した内容である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	状況変化時、及び6ヵ月毎の介護計画書の見直 しが行われている。職員の気づき等は申し送りノ ートを活用し、利用者の状況の把握と共有が図られ ている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	協力医療機関による週1回の往診や受診対応、 利用者の状況に応じたの専門医療機関への受診 支援が行われている。月1回の買物やドライブと しての外出など、柔軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に今までのかかりつけ医の継続とホーム 協力病院の利用について説明を行っている。家族 対応を条件として、今までのかかりつけ医の継続 利用が可能である。利用者の状況に応じて、認知 症専門医への受診支援を行うなど、適切な支援が ある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、自然な形での看取りをする 方針であり、ホームとして出来ることと出来ないこと を契約書面に明記して、説明を行っている。日常の かわりを通じて利用者の意向の把握に努めてい るが、情報の共有までには至っていない。		センター方式の他の様式の活用を検討され、本 人の終末期に対する意向等もふまえて、その人ら しい暮らしを支えるツールとして、更なる内容の充 実に取り組まれることを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりを通じて、利用者の思いや気持 ちを尊重した声かけや利用者の反応の良い称呼 が用いられている。ホーム内で、禁止用語につい て勉強会を開き、言葉使いを意識することによって 人生の先輩として尊敬の念をもった言葉かけが実 践されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムや状況に合わせ て、食事にかかる時間や入浴のタイミング、日中の 過ごし方など、日常生活の様々な場面において利 用者のペースを尊重した対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の希望やその時々食材に応じてアレン ジして、職員が献立を作成している。料理の味見、 下ごしらえ、引き膳、片付けなど、利用者の出来 ることを活かした支援が行われている。調理する際 の匂いや音などが五感へ働きかけ、食事時間が楽 しみとなるような工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	週に3～4回の入浴実施である。利用者の中 には、個人用の洗面器やシャンプー等を持参して いる方もおられる。また、隣接する事業所に湧き出 た温泉を利用しており、ホームに居ながらにして温 泉を満喫できる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	テーブル拭き、食事の下ごしらえ、調理手伝い、 後片付け、畑仕事など、利用者の出来ることを把 握し、役割として介護計画書に取り入れての支援 が行われている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	月1回の外出、季節毎の花見、地域行事への参 加、畑仕事や収穫作業など、戸外に出ることを意 識した取組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠されており、ホーム敷地内を自由 に散歩できる。利用者の所在確認と職員間の声かけ による見守りの強化、利用者のきめ細かな観察に より外出傾向を把握するなど、利用者の安全と自 由な生活への取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、併設事業所との合同による避難訓練を 通じて、避難場所や避難経路等の確認が行われて いる。運営推進会議に消防署職員の参加が見ら れ、非常災害時等の協力を得るための働きかけが 行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の希望やその時々々の食材に応じてアレ ンジして、職員が献立を作成している。食事摂取量 を把握し、状況に応じて小さく刻んだり、食器を入 れ替えるなどの支援がある。水分摂取量の把握が 必要な利用者に対して、介護計画書に取り入れて の支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから食堂、居室と余裕を持たせた造りとな っている。また、リビングは自然光を採り入れ、快 適な空間となっていた。利用者と職員との楽しい 会話や利用者の表情から、居心地のよさが伺え た。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の居室には、テレビ、位牌、写 真、余暇活動の時間に作成した作品が飾られるな ど、利用者一人ひとりがゆっくり・安心して過ご せる居室となっていた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号